



色とりどりの団子をみずきに飾り付ける園児

小正月行事「みずき団子飾り」 1月10日

カラフルな団子で伝統に触れる

「みずき団子飾り」がショッピングセンターとびあで開かれ、遠野聖光こども園の年長児17人が参加しました。五穀豊穡を願う伝統文化に親しんでもらおうと、とびあと産直組合がんせが初企画。園児は組合員らに教わりながら、色とりどりの団子をみずきに飾り付けました。中浜詩ちゃん(6歳)は「たくさん飾り付けることができて楽しかった。赤いお団子が一番おいしそう」と声を弾ませました。



お祝いを受けた浅沼さん(右)と妻のフクノさん

みやもり荘で長寿をお祝い(1月5日生まれ) 1月10日

宮守町の浅沼三十里さん100歳

100歳を迎えた浅沼さんのお祝いがみやもり荘で行われ、家族や施設の職員が長寿を祝いました。記念品を贈られた浅沼さんは「これからご飯をちゃんと食べて、1年1年過ごしていきたい」と話しました。大正13年に花巻市大迫町で生まれた浅沼さんは、24歳でフクノさんと結婚。農業を営みながら、6人の子どもを育て上げました。現在は孫8人、ひ孫9人に恵まれ、同施設で夫婦仲良く過ごしています。



事例発表した菊池愛奈さん(土淵小2年)と菊池柚奈さん(同5年)

令和5年度地域で子どもを育てる活動発表会 1月13日

地域と学校の連携事例を学ぶ

同発表会が市民センター大ホールで開催され、学校関係者や保護者ら190人が参加しました。▷学校▷地域づくり団体▷小中学生——などが協力して取り組んだ教育活動を発表。各地域の実践事例や課題を共有し、地域と学校が連携する必要性を学びました。菊池貴子さん(宮守町宮守)は「他地域の活動は参考になる。地域でもできることがたくさんあると気づきを得られた」と思いを語りました。



空中でハンドルを回してみせた大和選手

ビーエムエックス BMXフリースタイルエナジーアクション 1月13日

一流選手のテクニックに大興奮

全日本フリースタイルBMX連盟による特別授業が遠野北小学校(浅沼寿典校長、児童247人)で開かれ、児童や保護者ら約100人が参加。国際大会で活躍する大和晴彦選手と内藤寧々選手の講義や実演を通じ、目標に向かって努力することや相手を尊敬する大切さを学びました。小山あさひさん(5年)は「自転車がキリンぐらいの高さまで飛び上がっていて、すごい迫力だった」と目を輝かせました。

1月7日 令和6年遠野市消防出初式

防火・防災を願い団結深める

出初式が遠野市民センター大ホールで開かれ、消防団員ら483人と消防車両55台が集結しました。式典では、消防活動に尽力した団員らを表彰。阿部和美消防団長の訓示を受け、今年1年の防火・防災を願い団結を深めました。式典後は遠野駅前通りを分列行進。一糸乱れぬ行進を披露しました。菊池逞仁くん(6歳)は「消防団員も消防車両も格好良かった。また見に来たい」と笑顔を見せました。



ラッパ隊を先頭に統率の取れた行進を披露

1月8日 令和6年遠野市交通指導隊、防犯隊初点検式

安心と安全を守る決意新たに

交通指導隊と防犯隊の初点検式があえりあ遠野で開かれ、地域の安心と安全を守る決意を示しました。交通指導隊(佐藤隆則隊長)16人と防犯隊(菊池邦一隊長)18人が参加。両隊員は服装や手帳などの点検を受け、交通事故や犯罪のないまちづくりに向けて思いを新たにしました。交通指導隊の佐藤隊長は「隊員同士の力を合わせて、事故の無い遠野を目指し活動していこう」と隊員に呼びかけました。



多田市長らから手帳点検を受ける防犯隊の隊員たち

NEWS 中高生海外派遣事業&グローバル人材育成事業

遠野を飛び出し英語で世界を学ぶ

冬休みを活用し、市内の生徒たちは海外の異文化体験を通じて国際的な視野を広げました。

中学2年生と高校2年生10人の派遣生は、1月5日～13日の日程で姉妹都市・米国チャタヌーガ市へ。同市の▷文化▷歴史▷まちづくり——などの学習を通じて、日本と異なる世界や生活の違いを五感で体験しました(写真1～3)。派遣生は、昨年から入国審査やレストランでの注文方法などを事前研修。現地では英語を使い、本市の紹介や大学生との交流を楽しみ、学びを深めました。菊池大輝さん(遠野東中2年)は「英語を聞き取ることができず会話できなかった経験をバネに、英語力を高め海外を知りたいと思った」と貴重な体験を振り返りました。

小学5・6年生11人は1月8日～10日、英国文化を体験できる宿泊施設プリティッシュヒルズ(福島県)に滞在。英語が公用語である施設内で実践的な英語表現を学びました(写真4・5)。期間中は外国人講師が集中的にレッスン。各種ゲームや科学実験などの非日常体験を通じ、基礎的英語力の向上を図りました。牧田茜音さん(遠野北小5年)は「レッスンを通じて、もっと英語で会話してみたいと思うようになった」と目を輝かせました。



1_ CSAS校(姉妹校)では生徒が歓迎 2_ 派遣生がチャタヌーガ市長と名刺交換 3_ 現地学生と一緒に水族館を訪問 4_ レッスン中のゲームも英語で会話 5_ 最終日は修了証書をもらいました